



福住小中学校 学校通信



福住小中学校
令和4年11月4日
文責 神元 聡

世界に目を向ける 自立する 共に生きる

【 学校教育目標 】 一人ひとりが 元気で いきいきと輝く子ども

行楽の秋 「虫の音も 残り少なになりけり 夜な夜な風の 寒くしなれば ~良寛~」11月になり、夜ごとに寒気が加わる季節になりました。朝、G3教室の前を通ると、季節にぴったりの短歌を群読する子どもたちの元気な声が聞こえてきます。G3で朝行っているサークル対話の締めルーティーンです。本校では、イエナプランの考え方を随所に取り入れています。芸能教科や福住学における「低・中・高・中学部」の合同学習、特別活動におけるリーダーとフォロワーによる「G1~G3/G4~G6/G7~G9(ファミリーグループ)」での異学年交流活動、学校行事・委員会・清掃活動などの校内での活動に限らず、秋の遠足・校外学習など、校外での活動でも、イエナプラン的なリーダーシップやフォロワーシップが活かされるよう計画されています。今後も、福住小中学校ならではのG1~G9の異年齢の交流が行われる仕掛けをたくさん創っていきたいと考えています。



スポーツの秋 今年度も、コロナ感染症対策のため校区体育祭は中止になり、代わりに、スポーツを楽しむことを主眼とした体育の授業としてのスポーツ大会を子どもたちと創りあげてきました。はらはらどきどき「出た目でしょうぶ」G1~3、激しく力強さが際立った「タイヤ取り」G4~6、小技と大技がコラボした「背中散歩と大縄跳び」G7~9、のすべてが、3学年単位のファミリーグループで行われ、それぞれに協力しあって活動していました。大会花形のリレーでは、全力を出し切り次の人へバトンを渡す時の「頼むで!」「よっしゃ!」の心のリレーが美しく感動しました。最後には、子どもたちがアドリブで「綱引きドリームマッチ」を実現してくれるという、うれしい誤算がありました。いきいきと輝く「福住っこ」の無限の力と可能性を感じた感動の時間でした。



芸術の秋

11月1/2日の両日、芸術鑑賞としてホンモノの日本の伝統文化に触れる目的で、伝承されている演劇では世界最古である「能学」の体験学習を実施しました。一日目は、G4~6が能の体験を、二日目は、G7~9の中学部が狂言の体験を行いました。森山泰幸氏をはじめ数人の能楽師の方々の指導により、笛や太鼓に触れたり、実際に能面を付けすり足を教えていただいたりしました。公演後、森山氏は、福住を舞台にした「氷室」という曲があるこの地は、能楽師の間で有名な場所だと教えてくださいました。

また一つ、「福住校区の誇り」が増えました。



ホームページ ホームページがバージョンアップし、スマホで閲覧しやすくなっています。今後、本校保護者のみ閲覧可能な「福住っこクラブ」に画像や動画等のアップも考えています。(*入室IDとPWは以前のままです。)